

## 平成 26 年度協議会の取り組み結果について

### 1 様式の共通化（連携シート）、支援の効果測定（成果指標）の試行実施の結果検証

◇検証のためのワーキンググループ会議を開催

【実施日時】：平成 26 年 11 月 7 日

【出席機関】：試行実施に関わった 8 機関（9 名）

（民間団体）

一般社団法人愛知 P F S 協会、一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会、一般社団法人若者支援事業団  
N P O 法人なでしこの会、N P O 法人 T E A C H F O R N I P P O N、N P O 法人ひだまりの丘

（行政機関）

なごやジョブサポートセンター（市民経済局）、教育センター（教育委員会）

【内 容】：共通様式及び成果指標の試行実施に関する振り返り

＜検討結果＞

共通様式、成果指標については特に修正点はなし

＜使用した感想＞

普段、綿密な連携関係がある団体でも、数値を通してその成果を共有し合うことで、別の視点から支援の在り方や本人へのアプローチの方法などを話し合うことができた。

#### （1）様式の共通化（連携シート）

連携する支援機関同士で、相談者の情報を統一したフォーマットのもとに共有することで、重複した課題を抱えた相談者を、どの支援機関にリファーしても、途切れることなく適切な支援が受けられることを目的として実施

〔当面、子ども・若者総合相談センターからのリファー時に使用する〕

試行実施の実績（26.10 末まで）：リファー先支援機関：7 機関、件数：40 件

## 参考：共通様式（連携シート）

### <連携依頼書>

年 月 日

支援機関名： 担当 様



支援機関名

担 当

### <連携状況>

	分野	機関名	担当
1			
2			
3			
4			
5			

#### ◆依頼書送付、到着に関するチェック◆

(共通) チェック

1. 送付の前の事前連絡 ☐
2. リファーマを受けた機関から、書類到着及び名前確認の電話連絡 ☐
3. プリントアウトした書類は、すぐにファイリング ☐

(メールの場合限定)

4. メールアドレスは事前に登録済みのアドレスを使用 ☐
5. 文書に英数混合6文字以上のパスワードをかける ☐
- (例: dht365)
6. 送信文書とは別便で、メールにてパスワードの送信 ☐

※メールにて書類の到着と開封確認しましたら、お電話ください

名古屋市子ども・若者総合相談センター

電話: 052-961-2543 メール: kiku@cowaka.net

※氏名と電話番号は送付時空欄とする

氏名(相談者)		相談者との続柄		年齢	
電話番号		居住区			
携帯番号					

氏名(対象者)		性別		年齢	
所属					
電話番号		居住区			
携帯番号					
障がい・疾病					
障害手帳	有・無・不明	種別:		等級:	
連絡の取りやすい方法・時間帯など					

### <家族構成&家族状況>

◇家族構成	◇家族状況(家計状況・家族関係など)

### <今までの支援機関との関わり>

支援機関名		備考	
医療機関		病名	
その他支援機関・医療機関との関わりについて			
◇機関名	◇かわりの期間	◇備考	

<相談に来た経緯>
<相談内容>
◇主訴
◇本人の悩みや希望
◇親や家族の悩みや希望
<本人の状況>
就労・在学状況、日中の活動状況、経済状況など
<本人の特徴：身なり／性格／こだわりなど>
<特記事項：健康状態／感情のコントロール／配慮が必要な言葉 など>
<見立て&おおまかな支援の方向性>
◆リファーマの内容◆
◇連携の目的・具体的な内容など

## (2) 支援の効果測定（成果指標）

困難を抱える子ども・若者支援においては、「就労」「復学」といったゴールのみで成果を測定されることが多いが、こうした成果に辿りつくには相当の時間を有する場合が多い。従って、支援による利用者の変化を具体的に測定するための指標により、支援の状況を可視化するとともに、長期的な視野をもってサポートすることの重要性について社会的な理解を求めるもの。

試行実施の実績（26.10 末まで）：他の支援機関へのリファー 23 人を対象

### ◆効果測定の結果

（23 人のうち一部抜粋：リファーした者について、26.10 末時点で状況を調査）

支援対象者属性			自立に向けた行動		コミュニケーション	
性別	年齢	主訴	前	後	前	後
男	21	ひきこもり	2	2	3	4
女	27	ひきこもり	5	8	4	7
男	15	不登校	2	3	3	4
男	23	ニート	5	8	3	9
男	16	発達障害	3	7	2	8
男	33	精神障害	5	5	5	7



変化の度合い	自立に向けた行動	コミュニケーション
変化なし	3	1
1	6	8
2	3	2
3	5	6
4	6	3
5	0	1
6	0	2

成果指標

現 状	自立に向けた行動		現 状	コミュニケーション (対人関係)
0	支援ストップ	来所拒否など支援がストップしている	1	他者への警戒心、拒絶感が強く、家族も含め、誰ともコミュニケーションがとれない
1	自分では相談に来ることができない	自分の部屋から出ることができない	2	インターネット・メール等であれば、複数の他者とコミュニケーションができる
2		自宅から出ることができない	3	一人でもコミュニケーションをとれる人がいる（家族・友人等）
3		普段は自宅から出ないが特定の場所あるいは特定の目的であれば外出することができる	4	特定の人・特定の話題ならば会話が成立する
4	自分で相談に来ることができる	周囲から言われるがままに来所している。来所はしているが受身あるいは拒否的な状態。	5	複数の他者からの働きかけにこたえることができる
5		自分自身の意思により来所している状態	6	相談員などの声掛けがあれば、他者に働きかけることができる
6		情報収集など自立に向けた具体的な行動に取り組むことができる	7	自分から人に声をかけ人にかかわることができる
7		【就労・進学等】 体験的な就労など社会参加に向けたトレーニングを行うことができる	8	他者の気持ちを考えたコミュニケーションをとろうとしている様子が見受けられる
8		【不登校】 不定期・短時間であれば登校・通所ができる	9	小集団でのコミュニケーションが可能
9		将来の方向性を決定し、具体的な準備行動ができる	10	社会生活を行う上で支障のないコミュニケーションが可能
10		3か月以上継続して登校・通所できる（要サポート）		
		非正規就労が決定している、または進学が決定している		
		フリースクール等にほぼ毎日登校・通所ができる		
		正規就労が決定している		
		学校に復学できている		

\* 「自立に向けた行動」と「コミュニケーション」の現状の段階はリンクしていない。

支援機関	評価日時	自立に向けた行動	コミュニケーション	合計	備考

## 2 企画委員による取り組み（ネットワークが円滑に機能するための方策）

◇団体等の実務者による企画委員会を組織し、各テーマ別にグループ化し、以下の取り組みを実施した。

### 〔企画委員〕

（民間団体）

一般社団法人しん、一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会、NPO法人ころとまなびどっとこむ  
NPO法人全国こども福祉センター

（行政機関）

なごやジョブサポートセンター（市民経済局）、ひきこもり地域支援センター（健康福祉局）  
発達障害者支援センター（子ども青少年局）

### （１）支援機関の支援内容、事例等報告会の開催

名古屋市発達障害者支援センター リンくす名古屋での報告会

実施日：平成26年10月31日（金）

参加者数：19名

#### ＜実施内容＞

15：00～15：30「発達障害者支援センターにおける支援について」発達障害者支援センター主査 富田 典子

15：30～16：45 事例検討（グループワーク）・発表

16：45～17：15 児童福祉センター見学

研修後のアンケートでは、ほとんどの参加者が「役に立った」と答え、いくつかの団体から、今後連携をしていきたいとの要望をいただいた。

## (2) 困難事例に対するケース検討会議の開催

実施日 : 平成 26 年 11 月 20 日 (木)

場 所 : 西生涯学習センター

参加者数 : 22 名

### <実施概要>

様々な困難を抱える子ども・若者の「具体的事例」をもとに、ワールドカフェ方式でグループワークを行い、支援のアイディアを出し合うことで、他団体の支援方法、強みを知るなど、情報等の交換・共有を行った。

### <事例提供機関>

◆なごやジョブサポートセンター (就労)、◆NPO法人全国こども福祉センター (親子関係・非行)

◆一般社団法人しん (精神障害)、◆子ども・若者総合相談センター (ひきこもり)

提供された事例はいずれも重複した課題を抱えたケースであり、参加者一人一人が「できること」を真剣に考え、持ち寄った。事例提供者からは、

- ・新しい発想が得られた。思いもつかない意見があり参考になった。
- ・一緒に真剣に考えてくれて嬉しかった。

などの振り返りがあった。

👉 名古屋市アドバイザー井村氏からのコメント

「一緒に考えてくれる人が増えた」という今日の感覚を大切にしてほしい。一緒に考えてくれる人が増えるということは、発想のバリエーションが増えるということ。つながることでは得られないものがある。

### (3) メールマガジンの発行

協議会構成メンバーの情報共有を目的に、メールマガジンを発行した。

26. 9 創刊準備号、10 月以降毎月 1 回、計 7 回発行

[内容]

- ・協議会として実施する取り組みの周知、NPO 団体等の実施する研修等の周知などの情報提供
- ・名古屋市アドバイザー 井村氏のコラム など

### (4) 支援者スキルアップ研修

支援者としてのスキル向上を目的として、下記の研修会を実施

#### ①若者支援における家族療法

講 師：東 豊氏（龍谷大学文学部臨床心理学科 教授）

日 時：平成 27 年 1 月 14 日（水）13：10～14：45

会 場：ウィルあいち

参加者：30 名

#### ②医療機関を中心とした地域連携の取り組み

講 師：平野 千晶氏（医療法人成精会荻谷病院 院長）

日 時：平成 27 年 3 月 6 日（金）19：00～21：00

会 場：ウィルあいち

参加者：24 名